

子どもが大きく見える時がある。先週の記録走大会の時、学年ごとに固まって並んでいる姿を見た時にまず感じた。そして、走る姿を一人ひとり見ながら実感した。単に体が大きくなったということではなく、強く、たくましくなったのではないかという感覚▼本校では、4月から体育の時間に「5分間走」を取り入れている。5分間同じペースで走り続ける。記録走大会では、その5分間走で身につけたペースを少しあげる挑戦をするのだ▼コーディネーショントレーニングを続けることで、転ぶことが減った。ふらふら走る子どもが減った。毎日鳥坂を登って、足腰が鍛えられている▼日常コツコツと続けてきたことがあるから、節が作れる。つまり成果が見える時が来る。節という漢字から竹かんむりを取ると「即」になる。すぐではない、積み上げてこそ「節」なのだ▼校舎改築の前半が終わり、子どもたちは新しい教室に引っ越した。新しい昇降口は、自動ドアになった。新しい教室の感想を子どもに聞いてみると、「教室が広くなったよ」と言ってくれる子がいた。廊下の間仕切りが取り払われた時、「廊下ってこんなに広がったかな？」という職員もいた▼ふとした変化で大きく見えたり、広く見えたりする。それは決して目の錯覚ではない。ポジティブシンキングは何気ない一言に現れる。柔らかな優しい眼と心を持った子の言葉は、あたたかい。